

平成23年度豊岡市予算がまとまりました

～豊岡の地域力を結集し、小さな世界都市を目指す～

12会計 総額で754億円

平成23年度予算は、「開かれた扉・未来への挑戦」を合言葉に、「豊岡の地域力を結集し、小さな世界都市を目指す予算」として編成しました。皆さんが納める税金や国・県からの補助金などが、まちづくりのためにどのように活用されるのかを紹介します。

《問合せ》財政課 ☎21-9014

予算の概要

一般会計は

454億1,225万円

平成23年度の予算(表1参照)は、一般、特別、企業会計を合わせた12会計の総額が754億3,276万円、前年度と比べ4.3%増となりました。

このうち、一般会計の予算額は、454億1,225万円で、前年度と比べ5.9%増となっています。

平成23年度は、「豊岡エコバレー」と「大交流」、そしてそれらを支える戦略を展開し、人口減少下における経済の活性化を目指す予算になっています。

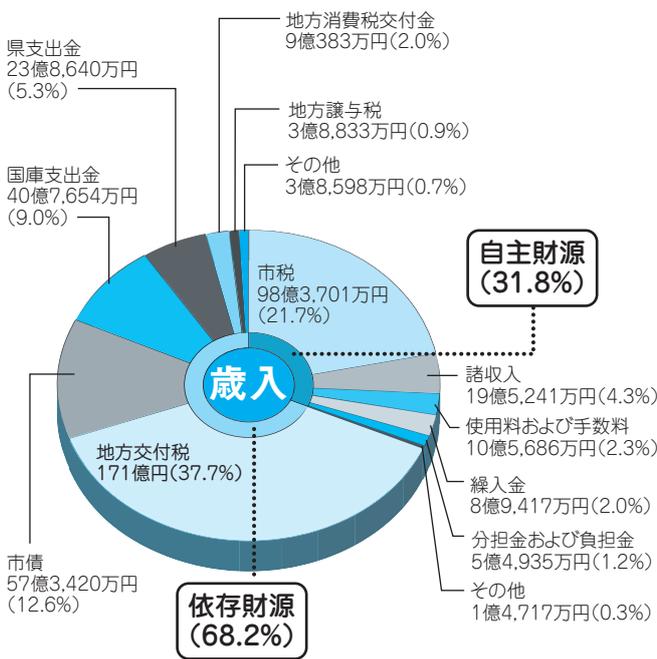
なお、行政改革の実施で、定員適正化の見直しなどにより、約3億4千万円の効果額を生み出しました。

市債残高は1,328億円

市債(借入金)は、市民生活の向上のための施設整備(道路・学校などの整備)に活用します。また、市債には、将来、施設を利用する市民の方にも返済を負担してもらおうという、世代間の公平を図る大切な役

一般会計・目的別予算の内訳

(グラフ1)



会計別予算一覧

(表1)

区分	予算額	前年度比
一般会計	454億1,225万円	+5.9%
特別会計	179億 86万円	+4.6%
国民健康保険事業(事業勘定)	94億6,483万円	+6.9%
国民健康保険事業(直診勘定)	8,426万円	+12.4%
後期高齢者医療事業	8億6,443万円	△2.5%
介護保険事業	69億9,138万円	+1.9%
診療所事業	1億9,046万円	+7.6%
墓地公園事業	2億5,142万円	+47.6%
宅地事業	5,036万円	△27.7%
管理会財産区	372万円	+64.8%
企業会計	121億1,965万円	△1.8%
水道事業	34億9,127万円	△4.5%
下水道事業	84億3,617万円	△0.5%
農業共済事業	1億9,221万円	△6.1%
合計	754億3,276万円	+4.3%

一般会計・歳入

市税は0.5%減
地方交付税は2.3%減

一般会計の財政構造は、他からの依存財源である地方交付税、国県支出金、市債などが歳入の68.2%を占める極めて脆弱なものとなっています。

市債残高

(表2)

会計	市債残高
一般	601億円
特別	5億円
企業	722億円
合計	1,328億円
市民1人当たり	149万円

(平成23年度末見込み)

割があります。平成23年度末の市債残高(表2参照)は、一般会計分が約601億円、前年度と比べ1.1%減となる見込みです。これに特別・企業のすべての会計を合わせた全市債残高は、132億5,711万円、前年度と比べ3.4%減となる見込みで、市民1人当たり(平成23年2月1日現在人口(住民基本台帳+外国人登録総数)8万8,828人)にすると約149万円になります。



中でも一般会計の歳入の内訳(グラフ1参照)で、最も大きな割合を占めるのが地方交付税(どの自治体でも必要最小限の住民サービスが提供できるように国が交付するお金)です。その額は171億円で、全体の37.7%を占めていますが、前年度と比べ2.3%減となっています。これは、国勢調査において人口減少が事実なことなどにより、地方交付税が減額されることを見込んでいます。

自主財源の柱である市税は、98億3701万円、歳入全体の21.7%を計上しています。が、たばこ税の大幅な落ち込みなどにより、前年度と比べ0.5%減となっています。また、施設整備などのために借り入れる市債を57億3420万円見込んでいますが、前年度と比べ59.9%の増となっています。これは、庁舎建設など投資的経費が増加するためです。

一方、起債発行に伴う将来世代の負担軽減のため、返済財源として基金へ積み立てを行うなどの措置を併せて講じています。

なお、平成23年度末の基金の残高(表3参照)は、財政調整基金などすべての基金を合わせたと、142億898万円、前年度と比べ1.3%増となる見込みで、市民1人当たりになると約16万円になります。

基金残高

(表3)

基金	基金残高
財政調整	42億円
特定目的	89億円
定額運用	3億円
特別会計	8億円
合計	142億円
市民1人当たり	16万円

(平成23年度末見込み)

一般会計・歳出

民生費に

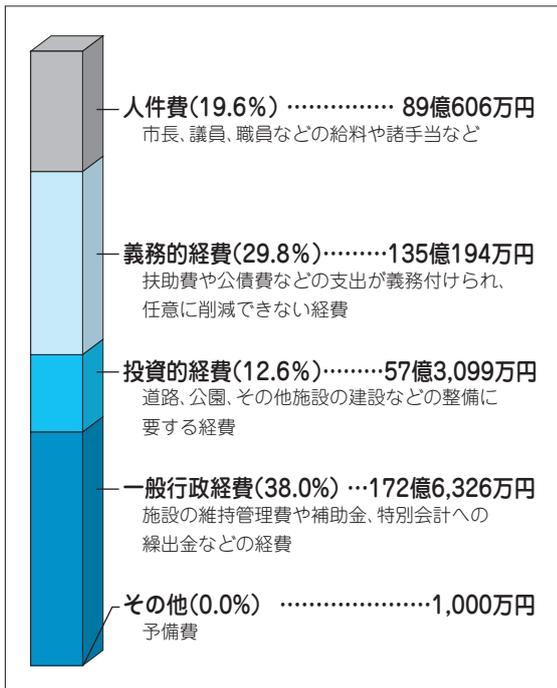
109億3031万円

一般会計の歳出の内訳(グラフ2参照)で、最も多いものは市民の皆さんの福祉の充実などに充てる民生費で、109億3031万円、全体の24.1%を占めています。これに借金返済に充てる公債費が75億438万円で16.5%、総務費が63億1927万円で13.9%と、高い数値で続いています。

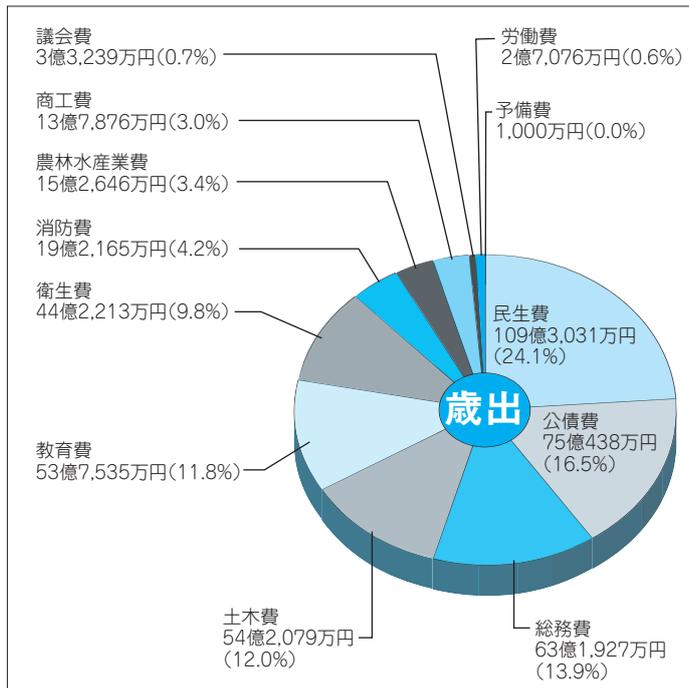
このうち、「豊岡エコバレー」と「大交流」、そしてそれらを

一般会計・歳出の性質別内訳

(グラフ3)



(グラフ2)



支える戦略に関する予算は、24億1234万円になっています。

歳出を性質別に見てみると(グラフ3参照)、人件費は89億606万円、前年度と比べ1.0%増となっています。

義務的経費は、135億194万円、前年度と比べ3.9%増となっています。

また、投資的経費は57億3099万円、前年度と比べ44.3%増と大きな伸びですが、これは、新庁舎建設や認定こども園整備などが大きな要因です。

なお、平成23年度の経常収支比率(※注1)は88.2%を見込んでいます。また、財政の健全度を示す実質公債費比率(※注2)は19.1%となり、国の定める水準の18%を上回ると予測しています。

※注1：経常収支比率
経常的に支出する経費に対する税などの一般財源の充当比率で財政の弾力性を示す指標。低いほど良い。

※注2：実質公債費比率
財政規模に対する公債費の割合を示す指標で、公営企業会計などを含めた連結決算の考え方を導入している。